

## 社会の福祉のために生きる

福祉の母、島マスは、1900（明治33）年3月、美里村（現石川市）で父伊波松、母カナの一男三女の末っ子として生まれました。

伊波家は田畑がないので、父はよその畑を借りて農作物を作り、地主の手伝いをしては、わずかばかりの賃金を得て家族6人の生計を立てていました。生活は苦しく、三度の食事の芋さえ満足に食べられませんでした。

そのうちに兄は18歳になるとハワイへ移民し、二女の姉は、他人に預けられ、生活費は減らされたのですが、貧しさには変わりありませんでした。このような貧しい生活の中にあってもマスはよく勉強し、よく働きました。日中は家の手伝いで忙しく、夜は勉強です。石油が少ないので「トゥブシ」という古い松の脂の付いた根の部分<sup>ヤニ</sup>を燃やして明るくし、勉学に励んだのでした。

父と母は、マスをかわいがりました。貧しいことを苦にもせず、伊波尋常<sup>じんじょう</sup>小学校を卒業したマスを、六キロも離れた美里尋常高等小学校（現在の中学校）へ進学させたのです。

マスは、ますます勉学に励み高等小学校から女子師範の入学試験にも合格しました。当時の女子師範は、沖縄県下からわずか48人しか採用せず、合格すれば本人や家族・学校・村の名誉にもなりました。

マスの合格を一番喜んだのは両親でした。しかし父は、学費やすぐに必要な入学準備金ですらないことが心配でした。

マスは、父の苦しい気持ちがよくわかるので「自分の手で入学準備金を作り出そう。」と決意し、屋敷内にいっぱい実っているシークァーサーを毎日毎日売り歩き、わずかばかりの金を手にして、目を輝かし、母に見せては喜びました。その様子を見てふびんに思った母と姉は、芭蕉の糸<sup>はしろう</sup>で魚網を作ったり、アダン葉帽子を編んだりしてこれを売りました。そして父の賃金とを加えて何とか準備金のやりくりができました。

両親や姉の情がマスの心の奥にしみ込んで、感謝の気持ちでいっぱいでした。

1919年3月、女子師範を卒業したマスは、両親と姉の待っている我が家へ帰り4月1日から山田尋常小学校の教師になりました。教師になれた誇りと、給料がもらえ家族4人の生活に心配がなくなったことが、何よりもうれしいことでした。このようにして伊波家にも春の季節がやっ



てきました。

マスは、1923年越来<sup>ごえく</sup>出身の島有剛<sup>ゆうごう</sup>と結婚しました。夫も小学校の教師で、心がやさしく、思いやりのある方でマスの両親とともに越来に移り住むことになりました。やがてマスは五男三女の八人の母親になりました。

母親と教師、そして、婦人会長も引き受け、一人三役の忙しい日々でした。

1941年、心配された太平洋戦争が始まり、1945年3月になると、米軍の大空襲があり、6月下旬ごろには激しかった地上戦もほとんど終わりました。マスは、20歳になる長男と、18歳になる二女が戦死し、出征した二男の消息も分からず、深く悲しんでいましたが、残された子どもたちを守って上げなければと必死になりました。

すべてを破壊された悪夢のような戦争が終わって数年、人々は着るものや住む家、食べ物さえ不十分で、未来への見通しがたたず、虚脱状態に陥りました。特に大黒柱である夫を戦争で失い、幼い子どもたちや、弱りきったお年寄りを抱え、途方に暮れている母子家庭の生活はあまりにも悲惨なものでした。

マスは、この悲惨な母子家庭の状態に心を痛め「なんとかならないものか。自分の家はどうかできる。母子家庭を助けてあげなければ...」と考えました。

そんなところへ越来村の村長に「婦人会長になってくれませんか。」と強くお願いされました。婦人会長は母子家庭の面倒を見てあげることにもなっていますが、職業ではないから給料はもらえません。しかしマスは、いっさいの私欲を捨て福祉に生きようと固く決意して、30年間勤めた教員を辞め、婦人会長を引き受けました。マスの福祉に生きる第一歩がそこからスタートしたのです。

1949年越来村は「コザ」という呼び名の町になっていました。町の中心部は米兵がわがもの顔で横行し、村民はかたすみでテントやかやぶきの粗末な小屋で貧しい暮らしをしていました。さらに米兵の横暴なふるまいに生活がおびやかされ、婦人会長のマスは我慢できず、村長や婦人会副会長らと共に勇気を出して、アメリカ軍指揮監督に訴えました。

この訴えは真剣に聞き入れられ、米兵の横暴は、次第に改められていきました。

県民の生活苦はなおも続き、子どもたちは学校にも行かず町をうろつき、そのうち軍施設に入り込んで食べ物などをあさったり、盗みをして捕らえられたりしました。子どもだからと許されることもなく、軍裁判にかけられ刑務所に送られることもありました。群島政府も心を痛め「児童福祉司」をコザ署と那覇署に置き、そのような子どもたちの世話をしました。

マスはコザ署に送られてくる子どもたちが軍裁判にかけられる前に裁判所の判事に釈放してもらおうよう強力をお願いして引き取り、家庭に帰しました。と

ころが食べ物がない、両親がいない者など帰すことができない子もいて、マスはとても悩みましたが、結局自分で引き取ることにしました。島一家は、だんだん人数が多くなり大家族になりました。マスは夫と友人の協力を得て1952年10月、「コザ児童保護所」を設立し、たくさんの児童を世話しました。その保護施設は、1954年「中央児童相談所」が設置されて、そこに仕事が引き継がれました。

マスは、子どもたちを保護しているうちに男子だけに限られていた沖縄職業学校（更生指導を必要とする現在の沖縄実務学園）や、女子のための厚生施設として、1953年「女子養護院」を設置しました。養護院に入ってきた子どもたちの心を入れかえさせるためにマスは、心を込めて相談したり、面倒を見てあげたり一生懸命働きました。何よりも嬉しいことは子どもたちが立ち直り、家に帰って進学 - 卒業 - 就職 - 結婚 - 子育てと、立派な社会の一員として成長したことです。

「至誠天に通ずる」というマスの愛と誠の心が、子どもたちの心に通じていったのです。

その後マスは、中部地区社会福祉協議会の事務局長になって、青少年問題に取り組み、その育成に努め、また幼稚園教育のための施設、設備の充実につくし、多くの仕事をやり遂げて、1966年9月1日に66歳で退職しました。

退職後も社会福祉活動を続けられ、赤い羽根共同募金、老人福祉などにも力を入れました。

「母子家庭の福祉に生きる」と決意してから40年、博愛の精神から湧き出る正義感と情熱、その実績は認められ、国や県知事、多くの団体などからたくさんの表彰状が送られました。

戦後沖縄の社会福祉の生みの親であり、育ての母でもある、島マスの社会福祉活動の歩みは、そのまま沖縄における戦後の社会福祉そのものの歴史であったともいえます。



# 道徳学習指導案

中学校

1 主題名 博愛の精神（公共の福祉） 内容項目 4 - （ 5 ）

2 資料名 社会の福祉のために生きる

3 主題設定の理由

（ 1 ）主題観

自己本位に陥りがちな人間の狭い利己心、人間の持つ弱さ、醜さを克服することは簡単な事ではない。ましてその先人の生き方を学ぶことにより尊敬の念を深め、人々のために貢献しようとする姿の尊さに気づかせたい。

（ 2 ）生徒観

中学生の時期は心身共に成長するが、情緒が不安定になったり、衝動的な行動をとったりすることもある。だが、自分が生きていく上で、どれだけ多くの愛を受け、支えられているか素直に見つめ、そして、他者特に弱い者に目を向け、すべての人が互いに認め合い、助け合い、励まし合い、誰もが生きていくことに喜びを見いだせる望ましい社会をつくろうとする意欲を育てたい。

（ 3 ）教材観

ボランティア活動に積極的に参加している生徒は多い。しかし沖縄戦後の悲惨な生活の中から福祉活動に目覚め、発展に努力した先人を知る人は少ない。すべての私欲を捨て、ひたすら福祉のために一生を貫いた島マスの生き方を学ぶことによって先人への尊敬の念を深め、人々のために貢献しようとする姿の尊さを気づかせるのに適した資料で、よりよい社会を築いていこうとする心情を育てることができる。

4 本時のねらい

沖縄の社会福祉のためにつくした先人に尊敬と感謝の念を深めるとともに、よりよい社会を形成していこうとする心情を育てる。

5 展開

区分	学習活動（教師の発問と予想される生徒の反応）	指導上の留意点
導入	1 これまでどんなボランティア活動に参加しましたか。 そのときどんな気持ちでしたか。	・感想を発表させる。
展開	2 資料「社会の福祉のために生きる」を読んで話しあう。 （ 1 ）島マス一家はどのような貧しい生活をしていましたか。 ・三食の芋さえ満足にない。 ・兄はハワイ移民、二女の姉は他人に預けられた。 ・松の脂（トッブシ）で勉強 ・女子師範学校への準備金がない	・物質文明の恵まれた環境の中で、育ってきた自分と対比しながら、貧しい生活の苦しさを理解し、現在の自分が恵まれすぎていることを悟らせ、両親に感謝の気持ちをもたせたい。

	<p>( 2 ) 貧しい生活の中でマスが勉強に励むことができたのはなぜですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マスは勉強が好きである。</li> <li>・ 両親や姉の努力</li> <li>・ 家族の暖かい愛情の支え</li> </ul> <p>( 3 ) 戦争で子供を失っているマスが社会福祉に生きようと決心したのはなぜですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区長がお願いにきたから。</li> <li>・ 悲惨な戦争で、かわいそうな人、困っている人、途方に暮れている人がいっぱいいたから。</li> </ul> <p>( 4 ) マスはどのような福祉活動をしていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童福祉の仕事</li> <li>・ コザ児童保健所の設立と子供たちの世話</li> <li>・ コザ女子ホームの設置と子供たちの世話</li> <li>・ 社会福祉協議会の事務局長になり青少年問題の取り組みとその育成など</li> </ul> <p>( 5 ) マスが一切の私欲を捨て、いろいろな福祉活動に頑張れたのはなぜでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 博愛の精神があったから。</li> <li>・ 「至誠天に通ずる」という愛と誠の心。</li> <li>・ 正義感と情熱。</li> <li>・ 家族の理解と支えがあったから。</li> <li>・ 相手が喜んでくれることに幸せを感じるから。</li> </ul> <p>( 6 ) マスの活動をどう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正義感と情熱のある人。</li> <li>・ 愛情が豊かで、やさしい人である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標を持って学問に励むことは明るい将来が約束されることを理解させたい。</li> <li>・ 家族の愛情があればどんな貧しい生活困難な出来事でも乗り越えられることを悟らせたい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一切の私欲を捨て、社会福祉に生きることは容易ではないことを、自分に置き変えて考えさせ、博愛精神のもつ寛大な心を理解させたい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マスの行ったもろもろの福祉活動がたくさんの人を助けたすばらしさに感動させ、先人に対する尊敬の念を深めたい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一切の私欲を捨て、福祉に生きることは容易ではない。しかし正義感と情熱、博愛精神に満ちた人は明るく住みよい平和な社会を築いていくことができる確信を持たせ意欲へと導きたい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私たちが住みよい平和な社会を築いていくには、他人に対する思いやりと、助け合い、協力していくことが大切であることを悟らせ、自分自身、弱い者にも目を向け、助け合っているかを気づかせたい。</li> </ul>
<p>終末</p>	<p>3 教師の説話を聞く。</p> <p>4 島マスの生き方から学んだことは何ですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 郷土の先人に、尊敬の念を深めながら、感想文を書いて発表する。</li> </ul>

< 資料「社会の福祉のために生きる」を活用して >

## 1 生徒の感想

### (1) 中心発問における生徒の発言

発問 「戦争で子供を失っているマスが社会福祉に生きようと決心したのはなぜですか。」

自分も子供を失っているからこそ、その悲しみや苦しみがわかるので、自分よりも多くの大切な人や物を失った人を助けたかったから。少しでも、支えになりたかったから。

子供を失ったより、親を失った子のほうが自分より大切だと思い、社会福祉をやろうと思った。

発問 「マスが一切の私欲を捨て、いろいろな福祉活動に頑張られたのはなぜですか。」

固い決意と優しさがあったから。

多くの人を少しでも良い方向に助けたいと思ったから。

みてきた子ども達が立ち直っていくのを見るのがうれしかったから。

小さい頃貧しかったので、「何が一番大切か」ということがわかっていたんだと思う。また、自分を支えてくれる大切な家族がいたり、福祉活動の中で頑張った分周囲が良くなっていくことが彼女を支え、頑張れるように後押しをしていたんだと思う。

### (2) 授業後の感想

島マスさんはとても人に対する思いやりや優しさが強いなと思いました。マスさんがこれまでやってこれたのは、家族の人や周囲の人達の協力があったからだと思います

マスさんは、自分がこんなに苦しい中でも他人の手助けをするということはずごいと思いました。マスさんのように大きな事はできないけど、小さい事から、出来る限りボランティアに取り組んでいきたいと思いました。

自分も厳しい状況におかれているにもかかわらず、他人のために福祉に生涯をそそいでいるのですごいなと思いました。ここまでがんばれたのは、幼い頃の貧しい生活や子供をなくすなどのつらい経験があり、そのときにいろんな人から助けられたからだと思います。

## 2 授業へ向けての留意事項

### (1) 資料について

- ・ 沖縄市社会福祉協議会内に島マス記念塾がある。

沖縄市社会福祉協議会 島マス記念塾塾務会 098 - 937 - 3385

(琉球放送テレビの冲電アワーで取材したビデオ(25分)が保管されています。)

### (2) 発問の工夫

- ・ 発問(1)(2)(4)は発表やワークシートで内容を理解させ、発問(3)(5)を重く取り扱ったほうがよい。

### (3) その他

- ・ 偉人を教材にするときは、功績だけをたたえることがないようにねらいをしっかりと押さえる。